

栄養バランスのとれた食事を楽しめるために

県北支部

福島県教育庁健康教育課

細田 千鶴（学校健康教育職域協議会）

学校給食における食物アレルギーの対応について

情報の共有

学校給食における食物アレルギーの対応は、児童生徒の健康と安全を守るために非常に重要です。

まず、正確な食物アレルギー情報の収集と保護者からの情報提供により食物アレルギーを持つ児童生徒が安全に学校給食を受けるための情報を教職員全体で適切に共有します。そして、食物アレルギーの種類や症状に応じて、個別の給食対応策を立案し、実施します。

交差汚染をふせぐための調理工程の確認

さらに、調理スタッフと連携を図り、食物アレルギー対応食の調理方法や提供方法について共通理解を図り、交差汚染を防ぐための対策も併せて実施します。

また、児童生徒と保護者に対し、食物アレルギーに関する正しい情報と自己管理の重要性を伝え、児童生徒が自分の食物アレルギーを理解し、安全な食事選択を行えるよう支援します。さらに、安全に関わる緊急時に備え、市町村教育委員会や各学校で対策を取りまとめ、迅速な対応や事故等の発生防止に努めています。

このように、食物アレルギーがあっても栄養バランスの取れた食事を楽しめるよう、関係者全体で児童生徒の健康と安全の確保に向け、協力して対策に取り組んでいます。



▲「学校給食における食物アレルギー対応指針」PDF

▲文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」

▶文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応の大原則」



食物アレルギー対応マニュアル

県南支部

郡山市教育委員会 学校教育課 学校管理課

郡山市における学校給食の食物アレルギーの対応について

今泉優希（学校健康教育職域協議会）

郡山市の食物アレルギー症状のある児童生徒は、令和5年4月の調査結果より、小学校713名、中学校399名で計1,112名に上ります。本市の食物アレルギー対応においては、「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」（平成30年11月改訂）及び文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」（平成27年3月）に則り、安全性を最優先に対応しています。

＜市教委「対応マニュアル」文科「対応指針」より抜粋＞

- 1 最優先は安全性
保護者や児童生徒の希望は、安全性が十分に確保される方法で検討する。
- 2 二者択一の給食提供
原因食物を「提供するかしないかの二者択一」を原則的な対応とすることが望ましい。
- 3 二者択一としたうえでの給食提供
二者択一したうえで提供する給食には除去食と代替食がある。代替食は除去食よりもきめ細かな対応が必要になるため、安全性が担保できない場合は除去食対応を選択する。
- 4 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、医師の診断による「学校生活管理指導表」毎年提出し、面談を受ける。



【郡山市の食物アレルギー対応マニュアル】

本市では毎年教職員向けに食物アレルギー研修を実施しています。また、万が一に備えて消防署とエピペン所有者の情報共有をしております。

今後も安全・安心でおいしい給食を子どもたちに提供できるよう取り組んでまいります。